

チャレンジする本当の意味



「チャレンジ」

と聞くと、前向きな気持ちになる人もいれば、気が重くなってしまいう人もいます。

前者は、既にチャレンジすることによる恩恵を受けた経験のある人が多いと思います。後者は、これまでに何度かチャレンジしてはみたものの、いつも途中で挫折したり最後まで行動が続かなかったりして、自分自身に対して後ろめたい気持ちを持ってしまっている人が多いように感じます。

今回のレポートのテーマは『チャレンジ』です。

【目次】

1. チャレンジ、イコール……
2. 人を解雇して失敗
3. 社長命令でセミナーやらされて失敗
4. チャレンジする意味

1. チャレンジ、イコール……

「チャレンジ」とは要するに、

「新しい行動」

のことです。

これまでの自分の経験履歴にはない未経験の行動。

たとえば、僕自身、ここ1ヵ月間で、ざっと思いつくだけでも、3つの「小さな」チャレンジがありました。

1つ目は、滋賀で友人のタナと行った対談コンテンツの収録。対談自体は何度も経験しているので別に新しくもなんともありませんが、

- ・コンテンツの監修役がいて
- ・10人くらいの聴衆の中で
- ・2台のカメラが回っている中で

やったのは初めての経験でした。ストレスでした。

2つ目は、先月末に行われたSPINS関連のセミナーです。セミナーに関しても、僕にとってはまったく新しくもなんともありませんが、

- ・僕をよく知らない人が大勢いる中で
- ・映画館のような造りの薄暗い会場で
- ・スポットライトを浴びながら

- ・聴衆の顔がよく見えない状態で

やったのは、まあ初めての経験でした。ストレスでした。

3つ目は、今週地元福岡で開催した、これまた SPINS 関連のセミナー。これは何が新しかったかというと、ユーストリームを使ったオンライン中継を同時に行ったことです。まあこれに関しては、技術的に成功させられる自信が無さ過ぎたため、大阪から優秀な弟子を呼び寄せることで、問題なくやりきる事ができましたが、本当に上手くいくのかどうか、上手くいく瞬間までストレスで仕方なかったです。

とまあ、これらすべてにおいてストレスを伴っていたわけですが、ここで言う「ストレス」とは、ある種の「居心地の悪さ」であり、

チャレンジ (=新しい行動) の際には100%必ず伴う“進化の淘汰圧”

です。

これまでの自分の経験履歴には無い行動をすることを「チャレンジ」と定義しているわけなので、心情としては当然ストレスだし、すこぶる居心地が悪い。どれも「小さな」チャレンジですが、でも紛れもなく初めての経験ですよ。

孫正義でも、スティーブジョブズでも、イチローでも、誰にとってもチャレンジが終わるその瞬間まで占めているのは、結果がどうなるかわからない、ということへの

- ・不安
- ・恐怖
- ・痛み

といった不安定な感情です。

でも、チャレンジがひと段落した先に待っているのは、

- ・達成感
- ・成長の実感
- ・進化の実感
- ・次のチャレンジへ繋がる自信

こういった心地良さであることが共通点です。

だけどこれは、チャレンジが上手くいった時に限った話。

チャレンジした結果、“自分の中で「失敗」が確定した瞬間”

に待っているのは主に“後悔”

だと思います。

「もっと準備しておけば……」

「あんなことしなければ……」

こんな後悔が待っています。

だけど、“自分事”として認識してしまったチャレンジから逃げた後に襲ってくる後悔よりは何倍もマシだし、その後悔は、まったく質の異なる次に繋がる後悔だということ。これは知っておいてほしいと思います。

たとえ失敗に終わったとしても、そして残ったのが後悔であったとしても、もっと先には、その時にしたチャレンジの経験が、思わぬところで救いになることは往々にしてある、ということ。

「チャレンジした」という経験そのものが、人生のどこかの局面で必ず生きる

ということを覚えておいてほしいんです。

もちろん、自分自身の経験でもってそう思うに至っているわけですが、最もそれを感じたのは、サラリーマン時代にした2つの経験です。いい機会なので、今回はそれをシェアしたいと思います。

2. 人を解雇して失敗

僕はかつてビルメンテナンスの会社でサラリーマンをしていました。ある時、某予備校の施設管理の仕事が舞い込んできました。それまでその施設に入っていた管理会社が、理由はわかりませんが、現場を引き上げたことで、回ってきた案件でした。そして、現場の立ち上げ～仕組み化までを僕が担当することになったのです。

ビルメンテナンスというのは、清掃管理、警備業務、エレベーター保守管理、空調設備管理、水質管理、などなど色んな仕事があるんですが、立ち上げ業務のメインとなるのは、人材の雇用、教育、育成、そして、各業務を請け負ってくれる業者の選定です。

雇用する人材は、以前からそこで勤めている人をそのままスライドで採用するのが基本なんですけど、管理会社が変わるということは、そこに勤めて

いる人たちの給与体系や現場のルールが変わるという事であり、その環境の変化を嫌って同時に辞めていく人もいますね。

多くのスタッフは生活がかかっているので甘んじて受け入れることになるのだけど、お互いの立場からの主張によって、ある程度の摩擦は必ず生まれます。現場側と管理側の人間関係が出来上がるまでは仕方のない事だし、お互いの歩み寄りによって、お互いが納得できるポイントを見つけていかなければならない。それも含めて僕の仕事だったわけです。

それである日、その現場では一番の古株だった清掃作業員のAさんに、大きな問題があることが発覚しました。このAさん、仕事は物凄く出来る人でしたが、一方で、我が強く、横暴な言動が目立っていました。

自分の考えや行動はなんでも正当化し、それを無理矢理にでも相手に認めさせる。そんな厄介な性格の持ち主でした。雇っている側であるはずの、前現場担当管理会社の間人も圧倒されていて、必要以上に気を遣っていた、多くの事に目をつむっていた。こんなレベルです。

他の仕事仲間たちが自分に逆らえないのをいい事に、彼はやりたい放題でした。

まあ、ここまでは百歩譲ってよしとして。

その後発覚したAさんの問題が、雇用する側としては許容しがたいものでした。これから改善を促していこうとか、そういうレベルを超えた問題だった。

間もなく僕は、人生ではじめて“解雇”という決断をすることになります。つまり、クビです。当時の僕には、その権限が与えられていました。対面でクビを言い渡すのは、精神的にかなりのストレスを伴うわけですが、

「あなたをうちの会社では雇うことはできない」

こうAさんに伝えました。実際にはもっと言葉を尽くしましたが、問答無用の姿勢でした。この決断自体、間違っていなかったと思っ
ているのですが、事前に調査、そして準備をしていなかったがために、これが別の問題を
引き起こす事になります。

これは直後にわかった事なのですが、Aさんと、その予備校の事務方で一
番の権限を持つ「事務局長」が実は大の仲良しで、いつもパチスロの話で盛
り上がったり、一緒にランチに行ったりするような間柄だったそうです。
事務局長といえば、僕が押さえておかなければならない現場の最重要人物
でした。

Aさんに解雇を言い渡した30分後、守衛室で今後の人材の打ち合わせを
していた僕宛てに、事務局長の次に重要人物である事務部長から直接内線
が入りました。

「西祖さんですね？事務局長が呼びです。至急、事務局までお越しいた
だけますか。」

解雇を言い渡された直後、Aさんは、ずかずかと事務局長室へ行き、「私ク
ビにされたからっ。お世話になりましたー！」と局長に一言言い放ち去っ
て行ったらしいんですね。

マジか、と。

大失態やないかい、と。

事を急ぎ過ぎてしまった。

もっとよく調べておけばよかった。

もっとよく準備をしておけばよかった。

そんな風な後悔の念を募らせながら、ふらふらと事務局まで足を運びまし
た。

・・・

おそらく、事務局長の心情はこうだろう。

詳しい事情はまったくわからないが、何年間も仲良くしていた人を、ポッと出の管理会社の若造担当が無下に解雇にしがった。調子に乗った世間知らずの若造の鼻っ柱をへし折ってやろう。

・・・

ただ、事務局へ向かう途中、「こうなったらもう仕方がない」と半分開き直りました。同時に、こんな風に考えました。「俺は悪い事も間違っただけでもないのだから、ずっと堂々としていよう」「終始、建設的に話をしよう」

・・・

事務局に入って通された部屋で待っていると、ほどなくして、事務局長と事務部長が入ってきました。物凄い怪訝そうな表情で、これ以上ないほどに冷たい視線を浴びせられました。

「この度はこちらの事でご心配をおかけしまして、申し訳ありませんでした」

丁寧に謝罪した僕を一瞥して、事務局長が言いました。

「うん。んで、どういうことですか？」

物凄く冷たい言い方でした。一瞬心が折れそうになりましたが、(表面上は)ひるむことなく、僕はこんな風な話をしました。

「Aさんには、許容し難い問題がありました。検討はしましたが、今回のような決定を下す必要があると決断しました。ただ、私は、管理業務スタッフ全員と、この施設で働く方々や生徒さんにとって、長期的に考えたうえでベストだと信じた対応を取ったつもりです。今後、私の方でできることは、

今述べたことを後からでもご理解いただけるように仕事でベストを尽くさせていただくことだと考えております。」

彼等の表情を見る限り、納得はしていないようでしたがそれ以上は口出しできないと思ったのでしょうか。

「……わかりました。では引き続き現場をよろしくお願いします。」

こう言って、事務局長は僕を帰してくれたのでした。

そこからは、いつもの自分の仕事をまっとうするしかありません。全力で、事に当たりました。

やはり、Aさんを解雇したのは正解でした。これまでAさんに遠慮していたスタッフたちは、憑き物が取れたかの如く、生き生きと働くようになりました。現場では、これまで足りなかった笑顔と挨拶を徹底させました。そして、良い人材や良い業者も見つかり、それがカンフル剤になって、全体的な士気や仕事の質もグッと上がりました。

・・・

それから3年後、僕は独立に伴い会社を退職することになります。

予備校現場の担当を別の人間に引き継いで久しかったですが、事務局長に最後の挨拶に伺いました。その時、事務局長に言われたのがこの言葉です。

「あなたは本当によくやってくれました。スタッフさんたちは本当によくやってくれていますし、以前よりも気持ちよく安心して施設が使えている。前の管理会社よりも問題ははるかに少ないし、私の仕事量も明らかに減った。

以前、あなたを責めるような態度を取りましたが、今では、あの時の私は間違っていたなあ、私の目は節穴だったなあ、と思っていますよ。

あの時はAさんがいなくなって寂しいと言う気持ちでしたが、今度はあな

たがいなくなってしまうとのこと。とても寂しいです。ぜひこれからも頑張ってください！」

僕の肩を何度もポンポンと叩きながら、とても優しい笑顔で言ってくれました。会社へ戻る車中、彼の言葉を思い出しながら、その貴重さを噛み締めながら、涙を流していました。

僕がこの経験を通して学んだのは、

失敗は、いくらでもリカバリーが効く

ということ。

「解雇」そのものは悲しいことです。する側もされる側も辛い。だからこれを「チャレンジ」だとは言いたくない気持ちはありますが、その時の僕にとっては、はじめての重くのしかかる決断であり、経験でした。

これはすべてにおいて言えることですが、

「これくらいの準備をしておけば大丈夫」

という確信がない状態で、わからないことだらけの状態飛び込むからこそ、チャレンジだと言えるわけです。もちろん、ある程度の調査と準備は必要ですが、どこまで調査すればいいのか、どこまで準備すればいいのかわからないから、チャレンジなんですね。

いくら人から「これだけやったらいいよ」「こんな風に考えた方がいいよ」と言われても、多くの場合それは、まだ自分自身の感覚にはないことだし、その人と自分はまるで事情が違うわけだから、実際にやりきるまで不安は消えないでしょう。

自分で飛び込んで、そしてやりきるまでは何もわからないんです。やった後にしかわからない事があって、やりきった後にしか見えない世界があって。そして、それが全てだと思います。

失敗体験も成功体験も含めて「全て」です。

その全てが、あなたの人生にとっての指針になっていくはずだし、あなたの人生にとって本当に必要なことを教えてくれるはずです。

あなたの問題に対して僕が、どれほどクオリティの高いアドバイスをしてあげたとしても、あなたが自分でやってみない限りは何もわからないんです。あなたがどんなにクオリティの高い教材で勉強したとしても、自分でやってみない限りは何もわからないんです。

何がわかるかは、わかるまでわからないけれど、そこでわかった“ナニカ”が、あなたの求める結果に繋がっていることは確かです。

『「知っている」のと「やっている」のとは別物』

とはよく言われることですが、そういうことですよ。

だから、自分が信じることをやったらいいと思う。

変な常識に囚われる必要はないと思うし、その他大勢の意見に迎合するのは勿体無いと思います。自分が「正しい」と信じたことをやったらいい。そして飛び込んだなら、後は一生懸命ベストを尽くすしかありません。

それでも予期せぬトラブルや問題は起こります必ずいくつかの失敗が待っている。だってそれがチャレンジだから。

それでも、一生懸命自分のベストを尽くせば、そこに至るまでの問題や失敗は必ずいつかリカバリーできるし、結果もついてきますよ。

...

もう一つ興味深いエピソードがあるので、こちらにも付き合ってみてください。

3. 社長命令でセミナーやらされて失敗

今から10年ほど前。僕が、25歳の時でした。予備校問題が片付いてから、ほどなくしての出来事でした。「個人情報保護法」なる法律が施行されました。

「個人情報保護法」

2003年（平成15年）5月23日に成立し、一般企業に直接関わり罰則を含む第4～6章以外の規定は即日施行された。2年後の2005年（平成17年）4月1日に全面施行した。個人情報保護法および同施行令によって、5,000件以上の個人情報を個人情報データベース等として所持し事業に用いている事業者は個人情報取扱事業者とされ、個人情報取扱事業者が主務大臣への報告やそれに伴う改善措置に従わない等の適切な対処を行わなかった場合は、事業者に対して刑事罰が科される。

<ウィキペディア>

今では当たり前の概念ですが、この法律が施行される以前は、個人情報の取り扱いに対する意識はまだどこも低かった。当時勤めていた会社も、多くの個人情報を取り扱っていたため、この法律の施行を受け、社内には緊張が走りました。

ある日、社長と僕の間で、こんなやり取りがありました。“悪夢”のようなやり取りでした。

・・・

「西祖、全従業員と各業者、集められるだけ集めて、個人情報保護法の講習会をやるぞ。」

「はい。」

「講師はお前だ。」

「は、僕ですか？」

「そうだ。」

「一人で……ですか？」

「お前はもう課長だろう。」

「はい。」

「問題あるか？」

「いえ。でも、僕は個人情報保護法についてはど素人です。」

「だろうな。2週間前に施行された法律だ。」

「はい。」

「勉強すれば大丈夫。」

「わかりました。」

「うちの会社がいち早くこういう動きをすれば、元請けにとってのいいアピールにもなるだろう。」

「はい。」

「で、こういうのは早い方がいい。1週間後だ。」

「はい？」

「1週間後だ。」

「1週間後に全ての段取りをして、何百人の前で僕が講習会を行う、と。」

「そうだ。」

「……1週間で講習会ができるまでになるものなんですか？」

「勉強すれば大丈夫。」

「わかりました。」

「よし、頼んだぞ！」

・・・

むちゃくちゃです。

一見、この法律の施行を重く、真摯に受け止めているかのような社長のこの対応ですが、上記のやりとりを経た僕の個人的意見としては、逆に、

「あ、この人完全に個人情報舐めてる」

でした。

当時の僕は、今ほどのレベルで吃音を手なずけてはいなかったし、人前で喋るのことに物凄い苦手意識を持っていました。もちろん、講習会（セミナー）なんてやったことなかったし、ましてや全従業員・全業者となると、300人規模です。

そして、わずか1週間で、個人情報保護法の全容を理解し、講習会用の資料を作成し、一人で壇上に立ち、それをちゃんと聴衆に伝えなければならない。

鳥肌が立ちました。

全身が、鳥のような肌になってしまいました。

その日帰宅して、急に気分が悪くなり、嘔吐しました。お口周りのヨダレをキレイに拭いてから、フラフラとした足取りで書店へ行きました。分厚い本を購入し、鬼のような通常業務の合間に、必至の思いで、1週間かけて資料を作り上げました。

それで結論から言うと、大失敗でした。

言おうとしていたことは忘れるし、何度もどもるし、散々でした。赤っ恥もいいところです。

25歳の若造と言えど、一応は役職者です。従業員の前で、そして業者の前で醜態を晒すのだけは避けたかった。

「俺は、社長に、恥をかかされた」

こう思うことでしか、自分をフォローすることができませんでした。本当に恥ずかしかったし、「穴があったら入りたい」とはこういうことだと思いました。もっと調査を……準備を……なんて思う以前に、こんな無茶な業務命令は断るべきだったと強く思いました。

・・・

だけど、それから何年かした後。僕は独立し、自分自身でセミナーを開催するようになりました。僕が最初にやったのは、確か30人規模のセミナーでした。全員が、僕を知っている人たちでした。その時の僕は、知識も経験も、あの頃の僕とは比べ物になりません。

緊張はしましたが、同時にこう思えました。

「こんなん楽勝やん」

あの時のあれに比べたら、今の自分は断然有利な状況にいる、という気持ちに救われたのです。でも、自分の意思で開催したセミナーでした。紛れもないチャレンジでした。ちゃんと、成長を実感することができましたし、次のチャレンジに繋がりました。

最初のセミナー開催を決めたキッカケも、社長から頂いたあの時の経験だったのかもしれませんが。あの経験がなければ、吃音者の僕がセミナーを自分で開催することはなかった……とは言わないけれど、もっとずっと先の話だったかもしれません。

何が言いたいかというと、

チャレンジは、リトライできる

ということです。

「背伸び」を超えたレベルのチャレンジは、僕のように大失敗したり大恥をかいたりするリスクがありますが、それでも、その経験は決して無駄にはなりません。次のチャレンジに生かされます。

失敗をトラウマにするか、糧にするか……は、自分次第

だということです。

ただ、凡人最良の僕の意見を言うなら、たまには大きなチャレンジをするのもいいかもしれないけど、背伸びレベルの小さなチャレンジを積み重ねていく日常を送ることをお勧めします。

4. チャレンジすることの意味

ここまでの話を踏まえて受け入れて欲しいのですが、

常に自分にとって未経験の新しい行動を意識していくべき

だと思います。

「常に」なんて言うと途端に重く感じる人もいるかもしれませんが、よりよい豊かな人生を送りたいのなら、まだ未経験の新しい行動を意識して、何かを選択したり決断したりする必要があると思います。

チャレンジすることの意味は、

新しい自分を発見できる

ことだと僕は考えています。

それはつまり、

自分自身の可能性の拡大

です。

多くの方は、『何かしら欲しいものを手に入れる』ことがチャレンジの意味だと思っているはずですが、もちろん、欲しいモノを手に入れるためにチャレンジしたり努力したりすることは大事ですが、究極的な話をすると、『欲しいモノを手に入れて終わり』なんてことはないじゃないですか。

人間の欲求は尽きないものですが、どうせ尽きないなら、

新しい自分を見つけることで、どんどん可能性を広げていく

ことを、「チャレンジすることの意味」として理解したらいいと思うんです。

“新しいナニカを手に入れる”ということの前には必ず、新しい自分との

「出会い」があるはずですよ。

例えば、これまで以上の「稼ぎ」を手に入れる前には必ず、思考や行動パターンの変化や、価値観の変化があるはずですよ。これまで異性にモテなかった人間がモテるようになるまでにも、何かしらの決して小さくはない変化があるはずですよ。

自分の中の何かが変わり自分の中の何か新しい可能性に気づくことで、自然と考え方も行動も変わる。

そして、

「結果」そのものが、これまでのものとはカタチを変える。

いいですか？

「これまでの思考・行動パターンのまま、これまでと違う結果が生まれるわけがない」ということがよく言われますが、こういうことですよ。

これまでの「思考・行動パターン」になかったこと、つまりチャレンジするからこそ、これまで見えなかった自分の中で眠っている可能性に気づくことができる。

僕が推奨している「モデリング」というのは、まさにここに気づくための有効な手段の一つなんです。未経験の経験を無意識に、しかし積極的に実践できるのが、僕が推奨するモデリングの概念です。自分がまだ見たことのない世界を今まさに見ている人をモデリングすることは、自分を覚醒させる作業です。

最初は小さなことからでもいいと思います。「これまで食べた事のなかった食べ物にチャレンジしてみる。」とかでもいいですよ。その結果、「俺はこういう食感を好きだと思える味覚を持っていたのか」という新しい自分を発見できるかもしれません。

ずっとこんな調子では人生は劇的には変わりませんが、こういうことの連続が大事だと思います。

憧れの人言葉、仕草、考え方を少しだけ取り入れてみれば、「ああ、俺はこんなことに価値を感じる人間だったのか」「ああ、俺はこんな人生観に共感できる人間だったのか」ということに気づけるかもしれない。

「ああ、俺はこんなことにチャレンジしたいと思えるような人間だったのか」「ああ、俺が求めていた理想はこういうものだったのか」……ここに気づけたら上出来です。

やっとうえで、「自分には合っていない」と思えばやめればいいだけです。それも、「自分を知る」という大事な作業の一つだと思います。

一部の天才には、こういう考え方は必要ないかもしれないけど、だけど僕の話は、

凡人の成長戦略であり、成功戦略であり、ひいては人生戦略

なんです。

とにかくね、

もっと自分に期待したほうがいい

ですよ。

だって今のあなたは、知らないことだらけでしょ。やってないことだらけでしょ。知れば、やれば、そこには、自分のまだ知らない自分がいるんですよ。

10年前に予備校問題や社長命令セミナーで泣きそうになっていた僕が、10年後の今の僕を想像できたでしょうか？ 今もまだ未熟者ですが、問題解決やコミュニケーションやリーダーシップをテーマにしたセミナーを自ら開催して感謝されるようになっていくなんて、これっぽっちも考えていませんでした。

もっと言うと、20年前に15歳だったヘタレの僕が、10年後に会社の中核として躍進していた自分の姿を想像していたでしょうか？

さらに言うと、今の僕が、これから10年後にもっと進化した自分の姿を想像できるでしょうか？

何年経っても、どんな自分になっても、未来の姿は想像できないけれど、期待することはできます。

今なら大いに、未来の自分に期待を寄せることはできます。

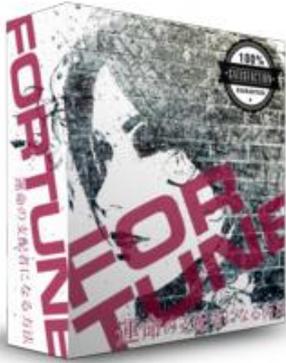
チャレンジ、していきましょうよ。

きっと、辛い事以上の喜びや感動が待っていますから。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

Arigato! ★ Aun

★このレポートを読まれたあなたにお勧めの講座



FORTUNE—運命の支配者になる方法—

自分に都合よく運命をコントロールし、望み通りの理想や成功を獲得することを可能とする4つの奇跡の資質……

1. 他人の能力を最短・催促でパクリする資質
2. 思考。妄想を忠実に現実化する資質
3. 結果が出るまで行動を継続する資質
4. 真実の成功習慣を見極め実行する資質

これら4つの資質を手に入れ、確実な進化と成功を手に入れてください。

▶ [製品の詳細はこちら](#)



THE DIVE—大きな挑戦をクリアする方法—

- ・勉強ばかりで行動が追いつかない
- ・行動しているつもりだがちっとも現実が変わらない
- ・現実を変える程の大きな行動ができない

……つまり「挑戦」が出来ないのであれば、これは必見です。結局のところ、勇気をだし思い切ってダイブ（挑戦）しない限り、現実は絶対に変わりません。

▶ [製品の詳細はこちら](#)